

制す」とか「水中有火（水中に火有り）」といった言葉を残しました。近代の土木構造物には、こういった扁額を入れ、構造物のデザインを含め、丁寧な造りがなされていたことがわかります。



面河第一発電所（久万高原町）

次は建物です。これは私の専門ではありませんが、長州大工による彫刻のある建物がいくつか発掘され、経緯も分かったので報告書に掲載しています。



永田三島神社（伊予市）長州大工による彫刻

これは、アメリカ人のJ.H.モーガン設計の松山女学校正門です。モーガンさんは、横浜の根岸にある競馬場みなさんご存じの東京駅前の丸ビル、今は建て替えられてしまいましたが、そういった名建築を中央で設計した人で、この正門も設計したことがわかりました。実は今日、ホテルからこちらに歩いてくるときに分かったのですが、この建物、現在修理中です。改修とっていましたが、瓦ははずし、屋根を全部取りはらっています。天井はあったかどうか分からないのですが、天井を含め取り外して改修工事をしているのです。何で改修工事しているのか聞いたところ、白アリにやられたからということでした。「どのような改修工事をするのか、ちょっと心配だね」と話しながらやって来ました。普通は改修工事をしているとき工事用の掲示板のようなものがあり、内容もわかるのですが、そういったものが全然なくて工



現松山東雲中学・高等学校正門（松山市）

事していたものですから、どのような改修工事がなされるのか、実は心配です。注意されたほうがいいのかなと思います。

少彦名神社参籠殿は、私は高速道路からしか見ていないので、写真はお借りしたのですが、こういう珍しい建物が見つかりました。ニューヨークに本部のあるワールド・モニュメント財団は、これを2014年の文化遺産ウォッチに選定しました。「文化遺産ウォッチ」とは、“緊急に保存・修復などの措置が求められている文化遺産”を世界中からの申請をもとに選考してリスト化し、広く配信して保護活動の必要性を訴えるプログラムです。これに選定されたということは、少彦名神社参籠殿の文化財的価値が国際的に認められた証であるとともに、同時にそれが危機的状態にあることをも意味しています。近代建築の懸け造りの希少例であるとともに、四国にある3つの懸け造りのひとつであることを考えると、大切にしてほしい建物です。



少彦名神社参籠殿（大洲市）

愛媛県になぜ青石の構造物が多いのか。鉱床図をご覧ください。みなさんご存じだと思いますが、緑色が三波川変成帯です。これは銅を含んでいる鉱床で、和歌山から遠く関東の秩父まで続いています。西は、豊後水道を渡って国東半島まで鉱床があり、日本国土の半分を縦断